



体育大会にむけて

校長 西尾 晃明

4月14日の熊本地震から約1ヶ月が過ぎ、熊本市内のすべての公立学校がようやく授業を再開しました。自分たちの校舎は使えず他校の間借り校もありますが、それでも子どもたちはうれしい。友だちに会えるからです。一緒に遊べし勉強もできる。でもまだまだ日常には遠いでしょう。校舎のひび割れは大丈夫だろうか、校庭はどのくらい安全に運動ができるのだろうか等々、いろいろな心配が胸をよぎります。

今の我が六中を見ると、朝は始業前ランニング、昼は体育の授業、放課後は部活動、そして体育大会の練習も始まりました。生徒たちの歓声が絶えないグラウンドです。あらためてこの日常に感謝すると同時に、いつ襲ってくるかもしれない大規模災害を考えると身が引き締まる思いです。

さて今年の本校の体育大会のスローガンは「百花繚乱」。そしてシンボルマークは、「仲間と共に」。生徒たちがどれだけ被災者の状況を意識しているかはわかりませんが、心のどこかで不安な影を感じとり、人とのつながりを無意識のうちに求めているのではないかと考えさせられました。そして、そうだ今はこの言葉しかないだろう、と共感しました。このシンプルなデザインがこんなに切実にリアルに迫ってくるのは、今この時代だからこそです。

4月の朝礼で我々は何ができるか考えて行動しようと言う話をしました。それが生徒主催の

シンボルマーク



募金活動やバザーになりました。いずれにせよ、この与えられた幸せな日常を大切に精一杯生きることが我々の使命であり被災地への大切な応援メッセージだと強く思っています。

そして来週の体育大会です。生徒たちは競技結果を競うだけではありません。六中の伝統としてお互いに精一杯応援し、それを受けて精一杯競技に取り組み、これ以上の充実した日は二度と来ないだろうという勢いで一日を過ごすのです。これが震災にあってもなおがんばっている同世代の人々の思いに千分の一でも応えられるかはわかりませんが、今我々にできる一つの答えだと考えます。

本校の特色の「思いやりの心」「やさしい心」「感謝の心」は被災を自分自身のこととして考え、真摯な思いをもって語られなければなりません。そして次はどう行動すれば良いのか。体育大会の練習に真剣に取り組む生徒たちの姿から私たち教員は学び、そして深く考え、そこからまた生徒と共に次の一歩を進めたいと思います。

----- 今後の予定 -----

5/23 教育実習始

6/3 あいさつ運動終

5/28 体育大会

6/11 学校公開リリック

5/31 あいさつ運動始

パブリック講演会

六中生の心

思いやりの心

やさしい心

感謝の心